



●インフォメーション

①1月14日(火曜・休診日)は午前中だけ臨時診療いたします。

13日(月)が成人の日でお休みの為、翌14日火曜日午前中だけ診療いたします。門前薬局はじめ薬局はどこも営業していますので、院外処方です。WEB予約可能です。皮下免疫療法や舌下免疫療法・ぜんそくなどの長期処方は可能です。しかしスタッフはお休みのためワクチンや健診、静脈採血検査や輸液療法はできません。体調を崩された方はご利用ください。

②1月15日(水曜)午後は市の健診の為、16時から18時までの短縮診療です。

同日14時から16時まで、大分市保健所の3歳児検診担当診察医で不在のため、終了後の16時から診療を行います。ご迷惑をお掛け致します。

	成人の日	火休診日	水	木	金	土	日
	13	14	15	16	17	18	19
午前	×	診療	通常	通常	通常	通常	×
午後	×	×	16:00~18:00	通常	通常	通常	×

●編集後記

皆様あけましておめでとうございます。今年初めの特集は、1年の出だしとして、「今年問題になるかもしれない小児科関連の病気を予想してみました」としました。いつもですが、盛沢山で書ききれない分もありました。本当は「大分でも子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が始まるかもしれない」にしてみたかったのですが、とてもとても実現は無理。かなわぬ初夢として没になってしまいました。ところで当院も今年6月で丸3年になります。石の上にも3年、という言葉がありますが、3年目でやっとみんなで力を合わせて頑張ろう、という空気に満ちてきました。この流れを大事に、今年も頑張ります。皆様方もいい年になりますよう心から祈念いたします。

受付時間	月	火	水	木	金	土
9時~12時	●	—	●	●	●	●
14時~18時	●	—	●	●	●	●

休診日/火曜・日祝日

9時より早く来られた方も、診療準備完了次第、順次診療しています。また夕方6時ぎりぎりまで受付しております。お気軽に相談ください。

インターネット予約が可能です

かみぞのキッズ よやく | Q
http://kamizono-kids.com

ホームページ
QRコードは
こちら



WEB予約
QRコードは
こちら



〒870-0822

大分県大分市大道町4-5-27 第5ブンゴヤビル2F

TEL:097-529-8833



かみぞのキッズクリニック

シックキッズニュース

2020年1月号(No.32)

2020年が幕開けしました。東京オリンピック・パラリンピックの年ですね。今年はどんな1年になるでしょうか？小児科の世界でも、どんな病気が流行するのかなと今から楽しみです。そこであいさつ代わりに、今年問題になるだろうと思われる小児科分野の病気について、予想してみました。学術的な裏づけはなく、あくまで私の思い付き、想像です。昔の天気予報よりも当たらないでしょう。当たらなくても笑って許してください。

●今月のフォーカス

今年問題になるかもしれない 小児科関連の病気を予想してみました

- 1 リンゴ病は今年の夏くらいまではだらだら続きそうでしょう
- 2 スギ花粉症は今シーズンは大したことはないでしょう
- 3 小学生の間で広がった百日咳は今年になっても終息は見込めないでしょう
- 4 マイコプラズマ肺炎が徐々に流行するでしょう
- 5 若年成人男子や妊婦さんは、ひき続き「はしか」、「風疹」などのインバウンド感染症の広がりにおびえることになるでしょう

1 リンゴ病は今年の夏くらいまではだらだら続きそうでしょう

昨年春先から4年ぶりに流行が始まったリンゴ病。秋口にはようやく九州でも流行が始まりました。普段は寒い時期になると少なくなるはずなのですが、冬になっても発生届数が収まる気配がありません。パルボウイルスB19の感染が起こってから例の類った真っ赤になるのに2~3週間かかるというだらだらした経過なので、インフルエンザのように隔離で流行を収束させる、という技が使えないためにだらだら流行が続いていると思います。春になって日に当たる機会が増えると、赤みが増してはつきりする、という特徴もあり、もしかしたら、夏くらいまでは報告が続くかもしれません。大人で初感染してしまっただけで発症したら、たかがリンゴ病、と侮ることができないのは、昨年の12月このニュースでも紹介しました。

有効なワクチンがない以上、免疫をつけるためには、リンゴ病に感染するしかなく、血液の病気とかでなければ、こどものうちに4~5年周期の流行の年にかかっていたほうが「たかがリンゴ病」ですむと楽観的に考えたほうがいいのかもかもしれません。昔、昭和のころまでは水痘やはしか、おたふくかぜでも、同じように小さいころにかかっただけで、と、わざわざ3歳くらいの子どもの病気の家に連れて行って病気をもらってきたころがありました。まさに私の子ども時代はそうでした。ワクチンができた今では、こんな恐ろしいことをいう人はいなくなりました。リンゴ病も妊婦さんが初感染したら流産してしまうことがある以上、少子化の今、ワクチンの開発が望まれます。

中面につづきます

2 スギ花粉症は今シーズンは大したことはないでしょう

もうすぐスギの花粉のシーズンに入ります。昨年の春の悪夢がよみがえった人も多いのではないのでしょうか。当院でもたくさんの方々が、特に花粉の最盛期の3月を中心に相談に来られました。スギの花粉の付け方には、表年、裏年、と違ってたくさんつけた翌年は花粉があまりつかない、という法則があります。昨年、九州のスギは表年で大量に花粉をつけたので、**今年は裏年**だろうという予想がもうすでにあります。さらに、前年度の夏の天候の影響も大きいです。昨年の夏は、全国的には巨大台風とそれに伴う水害が大変な問題になったように、九州も雨が長く日照時間が少なかったです。その翌年の花粉のつきはよくないそうなので、今年こそ九州では花粉の飛散は、昨年と比べてぐっと少なくなるという予想です。

それと、昨年スギ花粉で痛い思いをされた方を中心に、**スギ花粉症の舌下免疫療法**がずいぶん浸透してきました。昨年のうちからスギ花粉治療薬、「シダキユア」による舌下免疫療法を始められて継続して続けておられる賢明な方々は、おそらく、今年もスギ花粉症の症状はぐっと改善されることでしょう。継続して3年から5年間続けたら、スギ花粉症は克服できる可能性が高いので、「もう治ったのではないか」と油断せず引きつづき頑張って治療を続けましょう。



3 小学生の間で広がった百日咳は今年になっても終息は見込めないでしょう

昨年の6月に臼杵市から始まった百日咳。7月のシックキッズニュースでも百日咳の特集を組みました。国道伝いに、野津、吉野、戸次と徐々に回って、判田や敷戸をとって、大分市中心部に流行が到達したのは10月頃でした。7月には、かかりつけのご家族の数か月のベビーが百日咳に罹って一時人工呼吸管理が必要になった、という怖い話もありました。百日咳は全数報告サーベイランスの疾患ですので、当院でも戸次や判田、付属小や金池小などの小学生を中心に、たくさんのお母さんを保健所に報告しました。百日咳が発生した小学校では、参観日にいったらクラスみんながコンコン咳をしてうるさいくらいだった、という笑えない話をお母さまから伺いました。

実は、これまでも、から咳だけが数か月遷延して何を飲んでも効きません、という小学生はたくさんいました。ぜんそくでもないし、蓄膿でもないし、肺炎でもないし、マイコプラズマもぜんぜん流行っていないし、もしかしたら百日咳かもしれないけど、せき込んで吐くとか典型的な咳ではないので診断するにはまいち説得力に欠けるな、と思って、漫然と咳止めを処方し続けて、そのうちに来なくなる、という患者さんです。

最近まであまり問題になってこなかった百日咳ですが、どうして今年になって久々に問題になったのでしょうか？それは、2018年1月から、百日咳が全数報告サーベイランスの疾患に指定されたことと、同年11月から百日咳の核酸同定検査が保険でできるようになったことが大きいです。百日咳菌は培養するのが大変難しく時間もかかり、且つ、血清学的にも抗体の値の解釈が難しく、そもそも子供に採血検査を簡単にできないという問題もあり、以前は百日咳菌に感染して百日咳を発症している、という確定診断をすることが大変

困難でした。それが、Lamp(ランプ)法といって、病原体のDNAなどの核酸を、サーマルサイクラーなどといった特別な機器を必要とせず、ローコストで簡便に検出できる技術を、栄研化学という国産メーカーが開発し、百日咳菌のDNAもLamp法で増幅、同定が可能となりました。そして2018年11月から百日咳でも保険でできるようになりました。

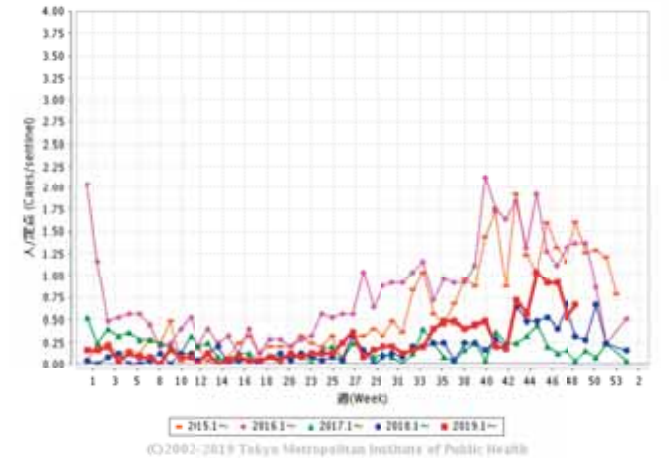
検査技術の開発と保険収載のおかげで診断は簡単になったのはいいのですが、問題はそれだけでは**百日咳の蔓延を防ぐことは難しい**ということです。百日咳にはワクチンがあり、日本でも4種混合ワクチンとして、1歳半ばくらいまでに4回接種をしています。ところが、ワクチンの効果は4~5年くらいしかなく、日本人の多くは小学生に上がるころには百日咳に対する免疫は切れてしまっているのが現状です。だから、免疫が切れてしまった小学生を中心に、百日咳が蔓延して、菌を家庭に持ち帰り、場合によってはワクチンを打つ前の赤ちゃんたちに感染させ、呼吸困難でたいへんな目に合わせる、という事態は今後も続くことでしょう。

百日咳の蔓延を効果的に防ぐには、ワクチンが一番有効です。日本小児科学会では、小学生に上がる前と中学生に上がる前の2回の追加の3種混合ワクチン(トリビック)の接種を勧奨しています。しかし、日本は財政状況が苦しいのか、ワクチンに理解がないのか、他の国のように国が責任をもって国民に接種しようという考えはまだないみたいです。定期接種でなく任意接種だと1回5000円ほど接種費用が掛かるし、万一の重大な副反応の際の保証が万全でないことから、接種率は全く上がりません。それで、今後も小学生を中心に百日咳の蔓延は続く予想します。

4 マイコプラズマ肺炎が徐々に流行するでしょう

オリンピックイヤーにいつも流行するといわれているマイコプラズマ肺炎。前回は2015年の秋から2016年にかけてでした。今年もオリンピックイヤーです。流行が懸念されています。図1は東京でのマイコプラズマ肺炎の1医療機関当たりの週の報告数です。実は今年の秋くらいから、じわじわとマイコプラズマ肺炎の報告数が増えてきています。マイコプラズマに関して、百日咳同様、Lamp法によるDNA核酸同定法が保険収載されています。が、いくら保険がきくとはいえ、従来から盛んにされている、あのインフルエンザの診断でおなじみの、綿棒ぬぐい液によるイムノクロマト法に比べて検査料は倍はしますし、5日ほど結果に有します。感度はイマイチですが、従来までのイムノクロマト法が検査の主流と考えます。

図1



5 若年成人男子や妊婦さんは、ひき続き「はしか」、「風疹」などのインバウンド感染症の広がりにおびえることになるでしょう

近年、盛んに話題になっている「インバウンド」という言葉。北米では、電車やバスのなどの交通機関の「上り」という意味でつかわれることが多いですが、巷で広がっているインバウンドは、外国から日本に来る旅行のことを指します。近年外国人の日本への訪問が増えていることで使われるようになった言葉です。例えば2019年ラグビーワールドカップで大分もホスト年になりましたし、なんといっても2020年は東京オリンピック・パラリンピック。2025年は大阪万博。世界的なビッグイベント目白押しです。例えば大阪万博。1970年に行われた万博の年に訪日した外国人客は85万人。ところが2025年の万博が行われる年には試算ですがなんと5,000万人の外国人が訪日するのではないかと試算があります(図2)。豊かになったアジア人を中心とした外国人観光客の日本に与える影響が無視できなくなったということです。

実はこのインバウンド。医療の分野でもいろいろと影響しています。もちろん外国旅行者による病院受診でのコミュニケーションや医療費の未払い問題などもありますが、ここでは置いて、病気、特に外国人が持ち込む**感染症**は大きな問題です。熱が出た、で訪れる外国人旅行者。南半球や東南アジアでは冬や雨季にはやる季節外れの**インフルエンザ**かもしれない。熱帯地方から来た観光客ならば、**マラリア**や**腸チフス**も忘れてはいけません。代々木の公園で有名な**デング熱**もあります。デング熱やマラリアは蚊による媒介感染症ですが、腸チフスは汚染した食物での食中毒で広がります。アフリカでは乾季に流行する**髄膜炎菌による髄膜炎**かもしれない。これは唾などで飛沫感染しますが、私を含め日本人のほとんどはワクチンをしておらず、免疫がない。咳が続く人。忘れてはならないのが**結核**です。2015年に韓国では、中東を中心に流行するようになって、2013年に見つかった新しい呼吸器感染症、**中東呼吸器症候群(MERS)**が180人以上発生しました。1人の中東帰りの肺炎患者が診断がつかないまま複数の医療機関を受診した結果、周りに感染させたようです。このように、日本の一般的な医者はインバウンド感染症の多くを自分で診察したこともないし治療もしていま

せん。**はしか**、**風しん**、**水ぼうそう**など日本では過去の病気となり、若い小児科の先生のなかには、はしか、風疹さえも診たことがない医師も増えてきています。

昨年春には、沖縄を訪れた台湾人観光客がはしかを持ち込み、滞在先を中心にかなりの数の麻疹患者が出ましたし、関東を中心に、本土にも飛び火したのは記憶に新しいと思います。はしかや風疹のワクチンを、成年男子の多くはこれまで受けておりません。これらの年代の男性に風疹の抗体検査とはしか・風しん2種混合ワクチン(MRWワクチン)を**市が3か年計画で助成**しています。詳細は大分市のホームページ(大分市・風疹・予防接種・助成 などのキーワードで検索)を参照してください。

図2

	1970年大阪万博	2025年大阪万博
		
来場者数	6,422万人 (実績)	2,800万人 (目標値)
開催日数	183日間	185日間
訪日外国人数	85万人 (実績)	5,000万人 (政府目標値から推定)
関西国際空港	なし	あり
LCC便の存在	なし	アジア中心に多数
会場	千里 (大阪北部)	夢洲 (大阪西部)